

社境は喬木森々たる靈地にして人をして自ら崇敬の念を生ぜしむ、因に記す、虫歯を患ふる者此の社に祈れば必ず応驗ありとて賽詣する人常に多しといふ

#### 往条院塔

白山神社の西北金色院の旧地にあり、五輪の石塔にて、宇治関白頼通公の令姫の塔なりといふ

#### 地藏院

同所の北にあり、旧と白山宮の坊舎なりしも、神仏分離の際今の所に移る、浄土宗にして、本堂の中央に本尊阿弥陀仏、左右観世音・勢至二菩薩を安置し、右脇檀に地藏尊・観世音、左脇檀に阿弥陀仏・弘法大師並に文殊菩薩の像を安置す、其文殊の像は旧と金色院の本尊なりとて、小像なれども佳作なり、猶右脇の間の檀上中央に十一面観世音菩薩の像あり、是れ亦た金色院にありたるものなりといふ、本堂前に弁財天の小祠及び鐘樓あり、弁財天祠は白山社境内にありしものにして鐘樓は金色院のものなりしといふ

#### 一五 京の華 大正一五年(一九二六) 出典15

(名産品・人形の項)

一、名称 宇治人形

(イ) 品質材料

茶の古木を彫刻し古式の茶摘女の姿とし、之に極彩色をなせる木彫人形なり。

(ロ) 沿革

寛永年間有名なる茶人金森宗和が、世務を避けて徒然の余り茶の木

を用ひて彫刻をなせしに始まり、其の作る所多くは茶摘女の姿にして、其の他茶事に因める人形を刻せり、而して之れに粉飾を施したるもの又は生地を其の儘のものあり、頗る雅趣ありて貴紳の間に珍重せられ、殊に徳川氏の末に至り広く世に賞玩せらるるに至り、宇治名産の一となれり。

(ハ) 生産販売者の住所氏名

久世郡宇治町字白川 楽山 岡村繁三

(ニ) 一ケ年の生産販売額

約貳千円

(ホ) 販路

宇治遊覧客の土産品なり。

#### 一六 宇治史蹟遊覧の葉 昭和二年(一九二七) 刊 出典16

○白山神社並に金色院

松岸嵐の上流約三町にして白川浜に至る。其処より右に折れ溪流に沿うて数町進むと、戸数六十戸計りの山間別天地の白川部落に着く。此地は御堂関白頼通の別業のあつた所で、往昔は宏壯な邸宅があつたことを推測し得られる。

金色院は、徳川時代長祿年間に焼失したので、記録等も全部烏有に帰し、由緒も確と判明しないが、奈良時代には朝廷の御願所とし、徳川時代には千石の御朱印地として、羽振りをきかせたものらしく考えられる。

今は唯道端に朱塗大門一字を残せるのみである。白川区有として保管するものに、大威徳明王像、阿闍如来像、及び曼陀羅、金剛界、蓮

華乗の三仏がある。何れも国宝で、其他虚空像菩薩、紺紙金泥の法華經もある、之等は金色院より伝はつたものに相違ないと云はれて居る。

区の西南隅の山麓、喬木鬱蒼たる所に祭られてゐるのは、白山神社である。其昔建治三年金色院の昭燈上人、加賀の国白山権現を勧請したものと云ひ伝へられて居る。数十の石階を上つた所に拜殿がある。久安三年院の御所の一部を移したものである。天井の構造等は他に類例を見ざるもので、特別保護建造物である。子持の駒犬亦異彩ある彫刻である。

### ■恵心院関係

一七 洛陽名所集 万治元年（一六五八）刊 出典17

（卷之六）

恵心院

○此院は興聖寺の川下也

（以下源信伝、略）

一八 東海道名所記 万治三年（一六六〇）著 出典18

橋を渡り小倉堤を過て左にゆけば宇治にいたる、この宇治橋ハ元興寺の道昭和尚のかけ給ひし所なり、ふるき書に宇治の離宮ハ橋の北にありといへり、いにしへの橋ハ社の南に有けり、十三重の石塔ある所、むかしの橋の跡也、碑の文ハ苔に埋もれてみえず、若楊脩あらバ摸りてよむべきや、離宮ハこれ、藤原の忠文が社也、橋の西のつめに橋姫の祠あり、小嶋が崎、山吹の瀬、みな爰にあり、茶をつくる所ハ久世

の郡也、平等院、南にあり、扇の芝、釣殿、恵心院、爰にあり

一九 出来齋京土産 延宝五年（一六七七）刊 出典19

（卷之七）

○恵心院

これは恵心僧都説法し給ひける所、本尊の彌陀はすなはち恵心の御作なり、朝日山に月の出てはまづ此彌陀の白毫にかがやくといへり、川端に十三重の石塔あり、これ忍性上人の立られし所といへり、何やらん書たる事共おほく彫つけて有とはみへながら、年経て久しき故にや、みな消て石もひするぎけん、文字つぶれたれば闇中に模索せし人なりとも読かたからんかし

此寺に山田はなきをいかなれば

そうつの音をきく恵心院

でき齋

二〇 菟芸泥赴 貞享元年（一六八四）著 出典2

（第四上）

○恵心院

離宮の北に在、源信僧都の開基、本尊は彌陀、即この僧都の作といへり、源信は姓は卜部、大和葛木郡の人也、父は正親、母は清原氏、栄名をのがれて横川に隠居し給ふ、よりにて横川僧都といふ、恵心僧都是也（元亨釈書に委）

一袋草子云、恵心僧都は和歌は狂言綺語なりとてよみ給はずありしに、恵心院にてあけぼのに湖を眺望し給ふに、沖より舟のゆくをみて、或人こぎゆく舟のあとの白波といふ歌を詠じけるを聞てめで給て、和歌

は観念の助縁となりぬべかりけりとて、それより読給ふと云々、さて廿八品并十楽の歌なども其後よみ給ふと云々

一東齋隨筆云、恵心僧都の頭陀行せられける折に、京中挙ていみじき御齋まうじてまいりしに、四條宮<sup>△</sup>関白頼実公女<sup>△</sup>にはうるはしく銀のごきどもをうたせる給ひしかは、かくてはあまり見苦しとて僧都乞食をとどめ給へり

二一 雍州府志 貞享三年(一六八六)刊 出典3

(五 寺院門下)

○慧心院 在同処(宇治川東)、本尊薬師而源信僧都説法之道場也、有持明院基時卿所筆恵心院之額

二二 京羽二重織留 元禄二年(一六八九)刊 出典4

(卷之四 額筆)

持明院基時筆

宇治

恵心院

恵心院

二三 和州巡覽記 元禄五年(一六九二)著・要確認 出典20

○恵心院 興聖寺の西北にあり、恵心僧都の住せし処也

二四 京城勝覽 宝永三年(一七〇六)著 出典21

○恵心院 川のひがし高き所にあり、恵心僧都説法ありし寺也

二五 京内まいり 宝永五年(一六〇八)刊 出典22

恵心院 同所(宇治川の東)に有

本尊薬師女来(ママ)、恵心僧都説法の地也

二六 山城名勝志 正徳元年(一七一一)刊 出典5

(卷第十七)

○恵心院 <sup>△</sup>在宇治興聖寺北、本尊薬師、額持明院基時卿、<sup>○</sup>土人云、当院境内有南昌院薬師院、離宮明神宮寺、其一也云云<sup>△</sup>  
鐘銘云、宇治恵心院、或在昔源信僧都卓錫遺趾也

二七 山州名跡志 正徳元年(一七一一)刊 出典6

(卷之十七)

○恵心院 在離宮南上壇地、宗旨真言、門<sup>△</sup>北向<sup>△</sup>、仏殿<sup>△</sup>西向<sup>△</sup>、額恵心院<sup>△</sup>横額<sup>△</sup>、持明院基時卿筆

本尊安二尊、左大日如来<sup>△</sup>坐像一尺許<sup>△</sup>、右聖観音<sup>△</sup>立像二尺許<sup>△</sup>、作未考、北協壇恵心僧都像<sup>△</sup>坐像二尺四寸許、七十二歳相<sup>△</sup>、自作

開基恵心僧都

二八 都名所車 正徳四年(一七二四)刊 出典23

○興聖寺 <sup>△</sup>宇治<sup>△</sup>

後深草院御宇曹洞宗開山道元和尚建立、そののち久敷中絶せしを、ちかき頃淀の城主永井信濃守再興ありて仏閣見事なり、去によつて花の春はよしののさくらをうつつし、山吹の花おほく、よき景地なり、わけて五月の頃はほたる火おほし、うしろの方に道春の書し石碑あり、此山を朝日山と云、又恵心僧都の説法ありし寺も宇治川の東高き所なり

二九 五畿内志 享保一二年刊(一七二七) 出典7

(山城之七 宇治郡 仏刹の項)

慧心院 〓在常光寺南〓

三〇 山城名跡巡行志 宝曆四年(一七五四)著 出典8

(第六)

〇惠心院 在離宮南、真言宗、門〓北向〓、仏殿〓西向〓、本尊二尊  
〓左〓、大日如来〓右〓、聖観音、開基惠心僧都

三一 山城名所寺社物語 宝曆七年(一七五七)刊 出典24

(卷之三)

〇惠心院 宇治

興聖寺の川下なり、此山を朝日山といへり、僧都説法ありし所なり、  
此辺さくら山吹の花おほし

三二 京師順見記 明和五年(一七六八)来訪 付表

一朝日山惠心院滝泉寺〓城州宇治郡宇治 無本寺 真言宗〓

御朱印高三十石〓白川蔵坊分頂戴之由〓 境内一町四方余 開基弘  
法大師 中興惠心僧都 本堂〓三間五間〓 本尊大日如来〓弘法大師  
作〓 弘法大師像 惠心僧都七十六歳像〓自作〓 御霊殿 護摩所〓

本堂内に有之〓 本尊五大尊〓中央不動尊 智証大師作〓

長日御安全の御祈禱護摩執行、毎春御札巻数并扇子等献上之由、寺継  
目於御白書院御礼申上、御暇之節時服拝領

聖天堂〓二間四方〓 本尊〓黄金尊像一体 白鍍鑄像一体〓 脇士

〓十一面観音 大自在天〓 薬師堂〓二間四方〓 本尊薬師〓弘法大

師一夜彫刻之尊像〓 脇士〓日光月光十二神〓 鐘楼〓二間四方〓

経蔵〓一間半三間〓 羅漢堂〓一間半四方〓 客殿〓五間七間〓 台

坊〓号南松院〓 客殿次の間床に烏丸光広卿手跡掛物有之如左、

頼政朝臣の旧跡扇子の芝に遊ひて 山途行客

夏は猶あふきのしはにまといしてすすき心更にしのはむ

此座敷次の間、椽類杉戸の絵、佐々木・梶原宇治川先陣を争ふ所古き  
画也、古法眼元信と云ふ由。金屏風探幽筆、極彩色熊谷・敦盛一谷  
の図。

什物 惠心僧都詞書〓伏見院宸筆一軸〓 早来迎弥陀〓惠心僧都の  
筆一軸〓 本堂額惠心院〓持明院基時卿筆〓

三三 都名所図会 安永九年(一七八〇)刊 出典10

(卷五)

〔宇治川〕〔宇治 興聖寺 惠心院 離宮八幡〕〔橋寺 宇治橋 通  
田が茶屋〕の連続挿し絵あり

朝日山惠心院 は離宮の南にあり、真言宗にして開基は惠心僧都なり、

本尊大日如来は弘法大師の作、薬師堂の尊像も同作、また惠心僧都七  
十六歳の像堂内に安置す、本堂の額〓惠心院〓持明院基時卿の筆なり、

開基源信僧都は和州葛城郡の人にして、姓は清原氏なり、叡山慈惠法  
師につかへ、顕密の教をよくきはめ一乘要訣・往生要集・阿弥陀経疏・

大乘対俱舍抄・因明相違など著はし、惠心院の僧都となり大唐南湖知  
礼法師に問書をつかはしければ、大に感歎し答釈つくりて返しける、

寛仁元年六月十日徒弟をあつめて、けふはた往生の期いたれり、教義

の疑しきを問ふべしとてみなみな決定をなさしめ、其後傍をさげ上足慶祐法師壺人をとどめて其ま終りをとげにける、寿七十六、時に天楽空にひびき、奇香よもに散じ、山中の草木ことごとく西になびきしとなり、趙宋皇帝僧都の道誉をききて塔廟を建て影像を置かしめ給ひけるよし聞えき

新古 我たにもまつ極楽にむまれなは

しるもしらぬも皆むかへてん

僧都源信

『中宿芝』 恵心院下岸のほとりにあり

三四 たびまくら 天保一〇年(一八三九)記 付表

(天保一〇年三月七日)

爰に云、伏見より宇治の方見べかりしを、余日なければ残念ながら見残しぬ。亦石山寺より牛の尾越とて宇治へ出る道有、爰より宇治へ懸り伏見江出るが順路也と云、亦日の岡を越江て出る道少し近し。宇治には名所古跡いと多し、其荒増をここにしるして後の便ならしむ。

(中略)

恵心院朝日山、竜泉寺と号、真言宗に而弘法大師の開基也。本堂は五間に三間、本尊大日如来也、則大師の作也、中興恵心僧都、御朱印三十石也。恵心七十六歳の像・目錄大師像・御靈殿・護摩段(壇)、本尊不動尊、五代(大)尊知証大師作也、聖天堂二間四方、薬師堂本尊薬師如来、弘法大師一夜之内の建立と云、其外鐘楼・経蔵・座(羅)漢堂・客殿、坊号は南松院、伏見院の勅筆也。御朱印五十石有。

三五 花洛羽津根 文久三年(一八六三)刊 出典11

(五)

○朝日山恵心院 右同所(橋寺)の南にあり

宗旨真言、本尊二体安置す、左大日如来坐像一尺ばかり、右聖観音立像二尺ばかり、二尊とも作詳ならず、開基恵心僧都、諱源信、和州葛城の人、叡山慈恵僧正の室に入て顕密の二宗をきはめ、また一向専念の旨趣を信す、寛仁三年六月十日寂す、時に天楽虚空にひびき、異香四方に薫し、山中の草木ことごとく西の方になびきしと也

三六 宇治川兩岸一覽 文久三年(一八六三)刊 出典25

朝日山恵心院 〓離宮八幡の南ニあり、真言宗、龍水寺と号す、本堂・聖天堂・薬師堂・羅漢堂・客殿・経蔵・鐘楼等あり、本堂の額は持明院基時卿の筆也〓

本尊大日如来〓弘法大師作〓、薬師堂〓本尊瑠璃光仏、弘法大師作〓、恵心僧都像〓堂内ニ安置す、七十六才の像也〓

当寺ハ、人王五十二代嵯峨天皇弘仁年間弘法大師の開基なり、其後多くの星霜を経て六十七代三条院の御宇長和二年僧都源信〓恵心の事也〓中興す、僧都は和州葛城郡の人にして、姓ハ清原氏なり、叡山慈恵法師につかへ顕密の教をよくきわめ、一条要決・往生要集・阿弥陀経疏・大乘対俱舍抄・因明相違など著し、恵心院の僧都となり、大唐南湖智礼法師に問書を遣しければ大に感歎し答釈を作て返しける、寛仁元年六月十日徒弟を集めて、けふはた往生の期いたれり、教義の疑しきを問べしとて皆々決定なさしめ、其後傍をさげ上足慶祐法師壺人をとどめて其ま終をとげにける、寿七十六、時に天楽空にひびき奇香四方に散じ山中の草木ことごとく西に靡きしと也、趙宋皇帝僧都の道

譽をききて塔廟を建、影像を置しめ給ひけるよし聞へき

我だにもまづ極楽に生れなば知も知らぬも皆迎へてん 僧都源信

(挿し絵)「朝日山恵心院離宮八幡」、詞書「当寺ハ本名龍泉寺といふ、弘法大師唐の青龍寺をうつして創めて当寺を建龍泉寺と号す、真言の霊場也、後に台山の恵心僧都此に住す 鶯のしほらぬ声や朝日山 其角、はつ雪や急にまはゆき朝日山 立忠)」

### 三七 宇治名勝案内記 明治三二年(一八九九)刊 出典13

○朝日山恵心院 宇治神社の南にあり、弘仁十三年弘法大師創立にて唐の青龍寺に似たるを以て龍泉寺と名付く、真言宗なり、其後多くの星霜を経て荒廢せしが、寛弘年中恵心僧都再建し、恵心院と名付け、此寺に住せり、本尊十一面觀世音及び大日如来藥師如来は弘法大師の作、寺号の額は持明院基時の筆、宇治川畔に朱塗の大門ありて堂塔完備せしが、明治二年大門僧房、客殿を取払ひ今は僅に本堂(永祿年間の建造)一字を存するのみ、当院の遺物は客殿の杉戸二枚山本甚三郎氏所有す、斯く由緒深き古刹なれば再興の挙こそ望ましかれ

### 三八 旧都巡遊記稿 大正七年(一九一八)刊 出典14

#### 恵心院

菟道神社の南にあり、朝日山と号し、真言宗を奉ず、当寺は弘仁年中弘法大師の開創せる仏刹にして、始め龍泉寺と号せしが、寛弘年中恵心僧都之を再興し今の名に改む、本堂の正壇に本尊十一面觀世音菩薩、前に歡喜天を安置し、右脇壇に恵心僧都の像、左脇壇に弘法大師、大黒天、釈迦如来、文殊・普賢・二菩薩、前壇に大日如来・虚空蔵菩薩・

五大尊の像を納む、猶本堂の側に聖天堂あれども既に大破せり

### 三九 宇治史蹟遊覽の栞 昭和二年(一九二七)刊 出典16

#### ○恵心院

宇治神社の南に在る寺院がそれである。嵯峨天皇の御宇弘仁十二年の草創に係り、弘法大師の開基に係る。当時大師は唐の青龍寺に似て居る故に、龍泉寺と名づけたが、其後廢類したのを、三条天皇の御宇、寛弘二年恵心僧都之を中興し、朝日山恵心院と称した。

僧都姓は藤原氏源信と称し、大和葛城郡の人、叡山の慈恵上人につきて、顯密の教を極め、寛仁元年六月、七十六歳を以て入寂した。同時往昔は境内も広く、本堂、聖天堂、藥師堂、客殿、経藏、鐘樓等と、堂塔完備して居たが、今は昔の面影もなく、朱塗の大門が宇治川畔に在つて人目を引いていた、其れさへ明治二年に取払はれ、今は僅かに永祿年間の建造に係る本堂二字を残すのみである。此地境内より茶臼石の出ること今に絶えない。

#### 出典

- 1 黒川道祐著 『新修京都叢書』 2 光彩社 昭和四二年
- 2 北村季吟著 『新修京都叢書』 5 光彩社 昭和四三年
- 3 黒川道祐著 『新修京都叢書』 3 光彩社 昭和四三年
- 4 孤松子著 『新修京都叢書』 6 光彩社 昭和四三年
- 5 大島武好著 『新修京都叢書』 8 光彩社 昭和四三年
- 6 釈白慧著 『新修京都叢書』 18・19 光彩社 昭和四二・四三年
- 7 関祖衡など著 『大日本地誌大系』 18 蘆田伊人編 雄山閣 昭

和四年

- 8 淨慧著 『新修京都叢書』10 光彩社 昭和四三年
- 9 秋里籬島著 『新修京都叢書』11 光彩社 昭和四三年
- 10 秋里籬島著 『新修京都叢書』12 光彩社 昭和四三年
- 11 『新撰京都叢書』2 新撰京都叢書刊行会 臨川書店 昭和六一年
- 12 京都市参事会編 『新撰京都叢書』3 臨川書店 昭和六二年
- 13 同書 舟木宗治著・刊 明治三二年
- 14 秋本興朝著 『新撰京都叢書』4 臨川書店 昭和六〇年
- 15 京都府内務部編 『新撰京都叢書』8 臨川書店 昭和六二年
- 16 同書 小早川乘治郎著 福井朝日堂 昭和二年
- 17 山本泰順著 『新修京都叢書』1 光彩社 昭和四二年
- 18 浅井了意著 東洋文庫三六一『東海道名所記』2 朝倉治彦校注 平凡社 一九七九年刊
- 19 出来齋著 『新修京都叢書』4 光彩社 昭和四二年
- 20 貝原益軒著 『日本紀行文集成』1 日本図書センター 昭和五四年(昭和版帝國文庫紀行文集 柳田国男 昭和五年の復刻)
- 21 貝原益軒著 『新修京都叢書』5 光彩社 昭和四三年
- 22 守拙齋著 『新修京都叢書』9 光彩社 昭和四三年
- 23 著者未詳 『新修京都叢書』9 光彩社 昭和四三年
- 24 著者未詳 『新修京都叢書』2 光彩社 昭和四二年
- 25 暁晴翁著 『淀川兩岸一覽 宇治川兩岸一覽』 柳原書店 昭和五三年

付表 恵心院関係紀行一覧

西暦	来訪年月日	著者・書名	出典	記事 / 備考
1683	天和 3. 4. 4	未詳・千種日記	①	右の山にすこしあがりて恵心院に入、此寺に僧都の像あり
1704	宝永 1. 5. 17	谷重遠・東遊草	①	恵心院西向、持明院基時卿の額有
1748	延享 5. 4. 25	本居宣長・日記（宝暦二年迄之記）	②	伏見京橋に著畔入、宇治平等院、興聖寺、恵心院、離宮、三室戸、本尊開帳、黄壁（槩）山、再入京、三条大橋東宿屋松屋権兵衛亭二止留ス
1768	明和 5. 2. 6	未詳・京師順見記	③	資料三二／著者は寺社巡見使
1788	天明 8. 11. 27	春木南湖・西遊日簿	④	朝伏見着岸、夫ヨリ宇治ノ里、平等院、扇ノ芝、興聖寺、恵心院、浮喜嶋、今八塔ナシ、亀ノ岩、山吹ノ瀬、月朝日山ヨリ出時八川波黄色ニナルヨシ、朝日山、宇治橋跡アリ、今八坂橋外ニアリ
1793	寛政 5. 5. 3	窪木清淵・西遊日記	③	恵心院は其の側に在り、小利にして偉観無し、恵心僧都が旧址なり、此の人は商略を能くし、事を好み俗を誘う、故に五尺の童子も能く其の名を知る
1800	寛政12.④. 21	伯邦・但州浴泉記	③	宇治の橋寺には、我府下の小林氏なる者の建し石碑ありて、古郷の美事なれば尋て過く、恵心院、菟道の宮、興聖寺なども一々見廻りぬ
1801	享和 1. 3. 13	石塚龍磨・花のしら雲	⑤	恵心院なる宇治の離宮と申にまうでて、さて興聖寺にもす
1801	享和 1. 3. 13	竹村尚規・さかりの花の日記	⑤	宇治に行、平等院、恵心院、興正寺（興聖寺）などへ立よる
1814	文化11. 4. 16	木下幸文・木下幸文日記	⑥	これより橋をわたりにて恵心院・興聖寺などに詣づ、このほとり虫おほかりといふもしろく、大かたはあし原なりけり、よべここにこざりしことをいへどかひなし
1816	文化13. 6. 8	未詳・旅日記	⑦	宇治橋の前より左へ分り、川に付、離宮八幡へ詣り、恵院（ママ）にいたる、恵心院と云額は恵心僧都の筆
1838	天保 9. 3. 28	未詳・十国巡覧記	⑦	是より二丁程下に恵心院竜泉寺といふあり、門に朝日山と額す、此山川の東に当る故名付しにや、本尊は大日如来、弘法大師の作、恵心僧都の開基、又説法せし寺といふ、最小寺なり
1838	天保 9. 8. 16	石瓦翁撰・百たらずの日記	⑦	通円が茶屋にいこひ、橋寺にいたり、離宮の太神、同八幡の宮を拝み、朝日山恵心院・興聖寺など見廻り、同じ所林道春の碑見侍るに、日はやくれなんとす
1839	天保 1. 3. 6	木内啓胤・たびまくら	⑦	資料三四
1855	安政 2. 5. 5	清河八郎・西遊草	⑦⑧	興聖寺より手前に恵心院といふ結構なる寺あり
	6. 12	横山桂子・露の朝顔	⑦	猶爰より河にそひて朝日山恵心院・興聖寺などいへる御寺にまうつるに、ここより向ひなるいと高き山は喜撰か岳とかや、弓手につつきし山を早蕨の杜・椎か本の社とよへるとなむ／来訪年未詳、著者は安政二年没によりここに入れる
1859	安政 6. 10. 4	中島広足・初しぐれ	⑦	橋寺・恵心院・興正寺（興聖寺）など行見る
1861	文久 1. 2. 22	近藤芳樹・梅桜日記	⑦	恵心院・離宮八幡・橋寺などめぐりて、かへさに平等院にいる
1861	文久 1. 4. 3	文久日記・深見篤慶	⑨	恵心院、離宮にまうでて、やどりにかへるころ、日くれたり
1862	文久 2. 3. 6	未詳・伊勢道中日記	⑩	朝日山真心院（恵心院）弘法大師八十八ヶ所山城国十番
1864	元治 1. 4. 10	萩原貞宅・都紀行	⑦	朝日山恵心院は真言宗にして開基は恵心僧都なり、本尊大日如来は弘法大師の作

「来訪年月日」内の○で囲った数字は閏月をしめす。

- ① 『史料京都見聞記』1 駒敏郎・村井康彦・森谷尅久 平成3年 法蔵館  
 ② 『本居宣長全集』16 大久保正 筑摩書房 昭和49年  
 ③ 『史料京都見聞記』2 駒敏郎・村井康彦・森谷尅久 平成3年 法蔵館  
 ④ 『西遊日簿』 稀書複製会叢書第4期19回 大正15年  
 ⑤ 『碧冲洞叢書』14 (88~93) 梁瀬一雄 臨川書店 平成8年  
 ⑥ 『京都の桂園派歌人たち』兼清正徳 山口書店 1990年  
 ⑦ 『史料京都見聞記』3 駒敏郎・村井康彦・森谷尅久 平成3年 法蔵館  
 ⑧ 岩波文庫『西遊草』 小山松勝一郎 1993年  
 ⑨ 「深見篤慶の『文久日記』一解説と翻刻」 梁瀬一雄 『愛知淑徳大学国語国文』11 愛知淑徳大学国文学会 昭和63年  
 ⑩ 「『伊勢道中日記』について」 圭室文雄 『茅ヶ崎市史研究』2 茅ヶ崎市史編集委員会 茅ヶ崎市役所 昭和52年



番号	資料名	年月日	備考
176	恵心院縁起 一卷	寛文13筆・延宝4写	良泉筆・藤原雅房写
177	恵心院画像阿弥陀如来由来記 一卷	交野時香筆・良純写	
178	阿弥陀如来画像 一幅		
179	伝伏見院宸翰 一幅		
176	恵心院縁起 一卷	寛文13筆・延宝4写	良泉筆・藤原雅房写
177	恵心院画像阿弥陀如来由来記 一卷	交野時香筆・良純写	
178	阿弥陀如来画像 一幅		
179	伝伏見院宸翰 一幅		
180	後宇多院宸筆勅書案 一卷		
181	浮島十三重石塔梵字影 一幅		
182	浮島十三重石塔梵字影 一幅		
183	浮島十三重石塔梵字影 一幅		
184	浮島十三重石塔梵字影 一幅		
185	恵心僧都法語 一幅		恵心院第七世良玄筆

番号	資料名	年月日	備考	
141	(口米受取綴)	明治3~4.		綴
142	覚(地子受取)	明治 3.12.25	酒波長者→恵心院	
143	恵心院高地手控帳	明治 5.10		豎
144	借用申金子之事	明治 6. 2	恵心院朝山良泉ほか→松林平治郎	豎
145	借用申金子之事	明治 8. 4. 7	恵心院良泉→阪部卯之助	
146	為取替申候証券(金子借用)	明治 9. 4. 4	恵心院良泉→阪部卯之助	
147	借用申金子之事	明治10. 1	松林長兵衛→朝山泉	
148	売渡シ申畑地之事	明治12.12.14	桜町上田勇蔵ほか→松林長兵衛	
149	官山下草掃除菴之御願	(明治)13.12. 1	馬場町松林長兵衛ほか→京都府	豎
150	借用申金子之事	明治16. 5.26	宇治郷松林長兵衛→宇治町鬼界弥七	
151	借用証(金子)	明治18. 3.18	宇治町井上仁左衛門→朝山良泉	
152	借用申金子之事	紀元2536. 4. 4	恵心院良泉ほか→阪部卯之助	
153	久世郡徴兵待遇規約	—		
154	(宗費上納達)	明治21. 9. 7	真言宗法務所	
155	官地借用ニ付契約書(雛型)	—		
156	(寺院実況調査)	明治32. 9	恵心院無住ニ付兼務紀伊郡竹田村安楽寿院	豎
157	キ(元利計算)	(明治)32.12.28	長谷川→あさ山	
158	キ(金銭受取)	(明治)32.10. 2	長谷川	
159	キ(金銭受取)	9.30	長谷川仙吉	
160	キ(元利計算)	(明治)34. 9.30	長谷川→あさ山	
161	宇治川の水力電気	明治41.12	宇治川電気株式会社	豎
162	恵心院表門建築略図(封筒)	—		
163	恵心院表門二十分一之図	—		
164	(某堂図)	—		
165	恵心院表門側面二十分一之図	同平面三十分一之図	—	
166	恵心院歛喜堂略図	—		
167	(宇治町略図)	—		
168	(水没興聖寺馬場略図)	—		
169	(封筒断簡)	—		
170	(封筒断簡)	—		
171	(封筒断簡)	—		
172	恵心院入費控へ	—	安楽寿院	
173	恵心院必要書類(封筒)	—		
174	寺用書類(封筒)	—		
175	右証文并要用書類(包紙)	—		